

主の祈り (93-5A)

天にまします われらの父よ
ねがわくは、み名をあげめさせたまえ
み国をきたらせたまえ
みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ
われらの日用の糧（かて）を、今日もあたえたまえ
われらに罪をおかすものを、われらがゆるすごとく
われらの罪をもゆるしたまえ
われらをこころみにあわせず、悪よりすくいだしたまえ
国と ちからと さかえとは、かぎりなく、
なんじのものなればなり

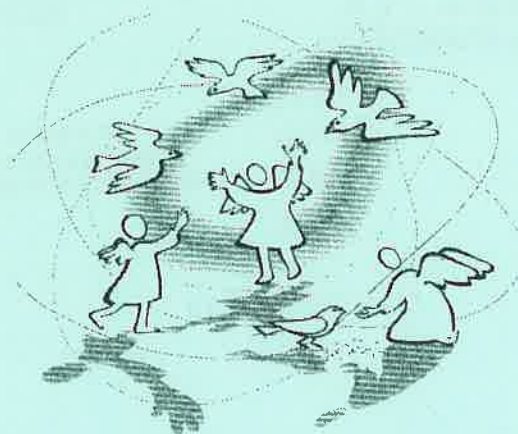
アーメン

石巻栄光教会宣教基本方針

石巻栄光教会は、主なる神と出会うイエス・キリストの体です。神様が愛している一人一人のかけがえのなさを思い出し、この世界を神様が大切にしていることを思い出す場所です。石巻栄光教会は、希望を生み出します。

私たちは、この社会の現実の中で生きています。教会の中だけでの満足にとどまらず、社会に生きる人々の痛みや苦しみ、あるいは楽しみを共にしていくこと、そして、悩みや不安を分け合って喜びに変えていく教会になることを願います。

また、一人一人の生き方を尊重するとともに、神様から一人一人に与えられている賜物を活かして、神さまと人を愛し、感謝しながら地域に仕えていく教会を目指します。



日本キリスト教団 石巻栄光教会

〒986-0854 石巻市大街道北2丁目12-3
電話/FAX: 0225-22-4090
ホームページ: <http://tohoku.uccj.jp/i-eikou>
メール: i-eikou@tohoku.uccj.jp
振替口座: 02280-8-2810
教会創立: 1887年9月25日

集会案内

聖日礼拝	毎週日曜日	午前10:30
早朝礼拝	毎週日曜日	午前7:30
交わりの会	毎週日曜日	礼拝後
み言葉と祈りの会	毎週水曜日	午後7:30

2024年度標語 『これは、人の意志や努力ではなく、
神の憐れみによるものです』

- ◎ 聖日礼拝を共に守りましょう。
- ◎ 日ごと聖書に聞き、祈りましょう。
- ◎ 家族・地域に福音を届けましょう。
- ◎ 平和を創り出すために働きましょう。

No.2503

待降節第三主日
礼拝式順序

2025年12月14日

受付
司会
献金
奏楽礼拝当番は
礼拝堂に集まった人の中で
可能な方に担当いただきます。前 奏
招きの言葉
讃美歌
子どもたちへの話
祈りルカ伝21章17-19
28司会者
一同

司会者

聖 書

イザヤ書40章3-10節

(旧約聖書1123ページ)

讃美歌

237 (1-2 節)

一同

お 話

「道ぞなえ」

川上直哉 牧師

讃美歌

237 (3-4 節)

一同

献金

一同

報告

司会者

讃美歌

91 (2節)

一同

祝福の祈り

後 奏

*当教会では 着席のまま礼拝を守っています。

*旧約聖書は前半(P.1502まで)、新約聖書はその後ろです。

*献金の額はいくらでも結構です。持ち合わせがないときは次の機会に。

〓〓〓〓〓〓〓 お知らせ 〓〓〓〓〓〓〓

2025年2月8日(日)午後2時から涌谷教会の礼拝を担当します。

2025年1月から、礼拝後に「カルト」問題の読書会を、開始します。

〓〓〓〓〓〓 今週の集会 〓〓〓〓〓〓

☆ 役員会 12月14日(日)11:40頃～

☆ 「初心に帰ってルカ福音書を読む」会 12月16日(火)10:30～ オンライン併用

☆ 「御言葉と祈りの時」 12月17日(水)19:30～ オンライン併用

〓〓〓 次週の予告 (12/21) 〓〓〓

☆ アドベント第四主日礼拝 (お話: 川上直哉 牧師)

[聖 書] フィリピの信徒への手紙4章4-5節

[お 話] 「喜べ。主は近い」

[讃美歌] 29 242 91 [招きの言葉] 19

受 付

奏 楽

礼拝当番は礼拝堂に集まった人の中で
可能な方に担当いただきます。

〓〓〓〓〓〓〓 お知らせ 〓〓〓〓〓〓〓

✦今後の予定は以下の通りです

・12月21日(日)クリスマス礼拝

・12月24日(日)クリスマスイブ礼拝(19時半から)

・12月29～31日 能登支援(ワイズメンズクラブ・東北ヘルプと共催)

・1月10日(土) 宮城北地区協議会

・1月18日(日) 日本基督教団東北教区宮城中地区との講壇交換

石巻栄光には齋藤朗子先生がお越しになり、川上牧師は仙台宮城野教会に参ります。

《 先週の集会統計 》

聖日礼拝	11人	み言葉と祈りの会	9人
早朝礼拝	3人	聖餐式	5人
月定献金		特別献金	
川上恵・大林健太郎 (以上、12月)		大林健太郎(クリスマス) 川上恵(クリスマス・受洗記念) 萩原恵子・柴宿教会(以上、感謝)	
席上献金	¥16,960		

週報別冊

2025 年 12 月 14 日号

1. 教会宛に、以下の通信が届いています。

【日本基督教団石巻栄光教会関係】

- 「クリスマスカード」(日本基督教団石巻山城町教会) : 「主に
ある恵み豊かな日々でありますように」と、カードを頂きました。
- 「クリスマス献金のお願い」(バザールカフェ) : 「初めてのお
手紙ですが、『福音と世界』の川上牧師の文章を通して、京都で私たちが
読んできた『荊冠の神学』を東北でも読んでおられると知り、親近感を抱い
ております。私自身の実践の場であり、多様な方々との出会いを通して、
自己を見つめなおす場であるバザールカフェのお便りを送らせていただき
ます。良きクリスマスとなる事をお祈りしています」と、活動委員の佐々
木結さんから、お便りをいただきました。
- 「クリスマスカード」(東北学院榴ヶ岡高等学校) : 2 年生の小
林明日花さん・平井勇司さんの絵画をデザインしたカードを頂きました。
- 「クリスマスカード」(宮城学院) : 「主のご聖誕を祝し、あわ
せて新年のお慶びを申しあげます」と頂きました。

【日本基督教団・東北教区関係】

- 「公開クリスマス礼拝」(学校法人宮城学院) : 東北教区事務局
より「東北教区の仲間の、宮城学院」の活動を分かち合いたいと、
また新たに連絡を頂きました。
- 「創立 80 周年記念礼拝のご案内」(日本基督教団矢吹教会) :
2026 年 1 月 25 日(日)午後 2 時半から、竹迫之牧師を説教者
として行われる記念礼拝のご案内を頂きました。
- 「フォトニュース」(北海道クリスチャンセンター) : 北海教区
のセンター館長に板谷良彦牧師が就任して一年の報告を頂きました。
- 「教団新報」(日本基督教団) : 「『声なき声』を聴き取って」
(台湾ユースミッション 2025) 等が掲載されています。

- 「学報」(日本聖書神学校) : 「『教勢の低下という問題への取り
組み』『教会がどのように育つのかといった成長への関心』など、
そうした状況下で希望を持つ教会として何をすべきか」について教
授会で話し合いが行われたことなどが記されている「全体修養会」
(教授 細井茂徳さん) 等が掲載されています。
- 「人権教育ニュース」(全国キリスト教学校人権教育研究協議
会) : 「部落差別をなくす食肉のまちづくりに学ぶ」(恵泉女学園
大学 斉藤小百合さん) 等が掲載されています。
- 「後援会だより」「クリスマス献金のお願い」(関西学院大学神
学部) : 日本基督教団のメソジスト系神学校からの通信を頂きました。
- 「新会堂建築献金のお願い」「手作りクリスマスカード販売」
(日本基督教団はりま平安教会) : 「兵庫県加古川市にある創立
34 年の教会です。創立時の方々はすでに天に召され、現住陪餐会
員 23 名、礼拝出席平均 16 名、オンライン出席は 6 名」のメソジス
ト系教会から、6900 万円の予算で、400 万円を目標とする献金要請
を頂きました。
- 「後援会だより」(秋田婦人ホーム後援会) : 日本基督教団秋田
檜山教会内に事務局を置き、女性と子どものための施設を運用して
いる団体からの通信を頂きました。
- 「あなたの愛をこの子らに」「ホザナ園だより」(社会福祉法人
ホザナ園) : 「戦後戦災孤児養育施設として始まったホザナ園は、
来年 9 月で 80 周年を迎えます。当初は創設者の自宅兼教会であつ
た教会で始まり、間もなくして現在の場所に土地建物が与えられて
現在に至っています」という さいたま市の児童養護施設からの通
信を頂きました。

【その他教会・団体関係】

- 「全国教誨師連盟のごあんない」「教誨あれこれ」(全国教誨師
連盟) : 全国 1779 名の教誨師が参加している連盟からの通信で
す。「姫路のブイנג・ブレイズ教誨師を訪ねて」(取材地 カト
リック神戸中央教会) 等が掲載されています。

2. 牧師動静

12月8日(月)

休暇を頂きました。

12月9日(火)

朝、教会で「初心に帰ってルカ福音書を読む」を主宰し、夜、「宣教論」読書会をオンラインで主宰しました。

12月10日(水)

日中、福島市で「ふくしま YMCA 設立準備委員会」に出席し、夜、祈祷会を主宰しました

12月11日(木)

午前中、一件の訪問をして読書会と聖餐式を行い、午後、東北少年院でクリスマス会を主宰し、午後、石巻で「多文化国際霊園」の会議を持ちました。

12月12日(金)

午前中、エマオで執務し、午後、仙台でワイズメンズクラブの会議に出席しました。

12月13日(土)

日中、休暇を頂きました。

- 今年の冬至は 12 月 22 日(月)、そして教会のクリスマス礼拝は 12 月 21 日(日)に行われます。礼拝の後、愛餐会と祝会を行います。有志による音楽演奏などもあります。どうぞ、ご参加ください。
- 今週の金曜日・19日の夕方6時半から、ワイズメンズクラブのクリスマス例会となります。「まきばフリースクール」の武田和浩さんがお越しになり、クリスマス講話をしてくださいます。徳水さんご夫妻、李裕絃さん、郷内宣子さん、佐々木玲哉牧師もご参加くださり、交流の時を持ちます。ご参加希望の方は、どうぞ、お知らせください。

- 12 月 24 日(水)は、ワイズメンズクラブのみなさまが園舎の掃除をしてから夕方に石巻山城町教会でのイブ礼拝に出席し、7 時半からの石巻栄光教会のイブ礼拝に出席されます。合流される方がおられましたら、大歓迎ですので、どうぞ、お知らせください。

12月15日(月)

午前中、教会で執務し、午後、仙台 YMCA で会議に出席しています。

12月16日(火)

朝、教会で「初心に帰ってルカ福音書を読む」を主宰し、夜、「宣教論」読書会をオンラインで主宰します。

12月17日(水)

日中、教会で執務し、夜、祈祷会を主宰します。

12月18日(木)

朝、東京へ向かい、午前中に佐山さんたちと聖餐式をし、午後、世界宗教者平和会議日本委員会 災害タスクフォースの会議に出席します。

12月19日(金)

日中、休暇をいただき、夜、ワイズメンズクラブのクリスマス例会に出席します。

12月20日(土)

午前中、エマオで「荊冠の神学」読書会を主宰し、午後、反貧困みやぎネットワークの「なんでも相談会」に出席します。

※牧師と面会をご希望される方は、どうぞ、ご遠慮なく教会のメール宛、ご連絡ください。上記日程を調整して、お会いいたく存じます。

はじめに、9月17日、「311子ども甲状腺がん裁判」の第15回頭弁論で証言台に立った、いわき市出身の20代女性、ひとみさんの証言を全文紹介します。ぜひ、声に出して読んでください。



震災が起きた時、私は小学6年生でした。ランドセルを玄関に放り投げて学校に行き、ブランコに乗っていた時に大きな揺れがきました。

原発が爆発したことは、よく覚えていません。ただ、将来自分ががんになって、病院に行く想像をした一瞬は覚えています。いつかがんになって死ぬかもしれない。12歳で、そういうことを、なんとなく受け入れていました。

原発事故後の世の中の急な変化で、感情が麻痺し始めました。目の前が薄く暗くなり、沼の中を歩いているような苦痛な日々でした。でも毎日学校があって、部活に行き、友達と家に帰る。その繰り返しで、ニュースで語られる「フクシマ」と、自分の生活はかけ離れていました。外国では、福島に住人は住めないと言われているらしいけれど、私の目の前には震災すら日常になった日々がありました。

高校2年生のときに甲状腺がんが見つかって、手術することになりました。どうしてがんになったのか、先生に聞くと、「この大きさになるには10年以上かかるから、原発事故の前にできたもの」と説明されました。私は、「原発事故と関係ない」というその言葉を素直に受け入れました。

医師は私を見て「みんなあなたのようなふうだったらしいのに」と言いました。その当時、「甲状腺がん」という言葉は原発事故と直結していて、この診断を聞いて、普通でいられる人はほほえないのだと感じました。検査も手術も、異様に軽い雰囲気が進められて、見つかってラッキーだったね。せっかくだし取ってしまおう。取ってしまえば大丈夫。そんなノリでした。

手術を終え、大学に進学すると、私は激しい精神症状に苦しめられるようになりました。幻聴、幻覚、錯乱状態、発作。身がちぎれそうな、激しい苦痛が9年続きました。その時はなぜ、そのような症状が出るのか、わかっていませんでした。でも、大学卒業後に受診した精神科で、震災のPTSDと言われました。

震災や原発事故があっても大丈夫だった。がんになっても大丈夫だった。

そう感情を麻痺させてきたツケを払うように、心も体も壊れていきました。

裁判のためにカルテを開示すると、1回目の検査の時は、がんどころか、結節もありませんでした。わずか2年で、1センチのがんができたのです。しかも、リンパ節転移や静脈侵襲がありました。

「事故前からあった」という医師の発言は嘘でした。この事実を知り、私の精神状態は悪化し、提訴後、会社を辞めました。

私は9年前、手術の前日の夜、暗い部屋で1人、途方もない不安や恐怖を抱えていました。その時、私の頭に浮かんだのは、「武器になる」という言葉でした。

私は当時、「甲状腺がんの子ども」を反原発運動で利用する人に怒っていました。私は、大人たちの都合のいい「かわいいそうな子ども」にはならない。なにがあっても幸せでいよう。そう思いました。

不安と恐怖と混乱で溺れてしまいそうなか、手繰り寄せて掴んだものは、怒りです。尊厳を侵された時、怒りが湧くのだと知りました。

それをかすがいに、甲状腺がんへの不安を乗り越えた高校生の時の私と共に、今、私はここに立っています。

でも大人に利用されたくない、強く願っていた私は、気づくと、国や東電に都合のいい存在になっていました。胃がねじそれそうなほど、悔しいです。

私が受けてきたものは構造的暴力です。命より、国や企業の都合を優先する中で、私たちの存在はなかったことにされていると気づきました。

私たちは論争の材料でも、統計上の数字でもありません。甲状腺がん、体と人生が傷ついた私たちは、社会から透明にされたまま、日々を生きています。

私にとって福島で育つということは、国や社会は守ってくれないということを肌で感じることでした。十分すぎるほど諦め、失望しました。でも、私は、抵抗しようと思います。

命と人権を守る立場に立った、どうか独立した、正当な判決をお願いします。



子どもの甲状腺がんは、100万人に対して年間1~2人といわれる稀少ながんです。東京電力福島第一原子力発電所の事故後の14年間で、甲状腺がんが診断された子どもたちは300人を越えています。

被告の東京電力は、がん患者の増加は認めても、それが事故によって放出された放射性物質を体に取り込んだためとは言えないとして争っています。

チエルノブイリ原発事故後に原発の周辺国で多発した子どもの甲状腺がんについては、10年後に原発事故の影響と認められ、IAEA(国際原子力機関)も認めています。

福島では原発事故後から、政府が十分な調査を行わなかったため、「子どもたちが実際のどの程度被曝したのかわからない」状況が裁判を難しくしています。

原発事故後から国と東京電力が進めてきた、「放射能は、皆が思うほど危険で怖いものではない」という安全キャンペーンによって、この裁判は提訴まで11年かかりました。「気にしすぎ」「怖がりすぎ」の声によって、住民の分断が進み、不安から目を背け、心を麻痺させて暮らさざるを得ない現実がありました。

現在の原告は7名です。1人の原告女性の話します。「今も、他の私よりも幼い子どもたちが、声を上げられない状況があります。今回、私たちが声を上げることで、他の苦しい人たちが声を上げられる状況になってほしい」。弁護団は、原告が数百人になってもおかしくないと考えています。

最後に、『世界史との対話』(小川幸司著、地歴社)から小川さんの言葉を紹介します。

「私たちは“豊かな生活”をおくっているうちに、“未来のいのち”がすっかり見えなくなっているのです。

原発というのは、その極限の産物です」

「“未来の子どもたちのいのち”のために、自分の“大切なもの”を投げ出す世界観と勇気を持てるかどうかということ。そのためには、私たちが“子どものまなざし”で、この世界のごまかしを見破らなくてはなりません。」

*パソコンやスマホで「子ども甲状腺がん裁判」と検索してください。

裁判や支援についての情報が出てきます。